

公園をみる・観る

= 秋、雨の朝 =

11月。久しぶりに公園を歩いた。雨もよいの早朝、灰色の雲のもと、葦は枯葉色に衣換えを終わり木々たちも紅葉し、色とりどりの実をつけ、公園の風景はすっかり秋景色。朝早いせいか人声もなく静かだ。遠くの道路を行きかう車の走行音が風に乗って聞こえてくる。耳を澄ますとパキパキと微かな音がする。小鳥たちが虫を食べようと枯れたヨシの茎の皮を剥いている音だ。雨は細く柔らかく、風もなく、わりと温かい。淡水池にはマガモ、ヒドリガモ、オオバンなどが航跡を引き静かに泳ぎ回っているなか、隅っこでオオハクチョウの幼鳥が水面に首を突っ込んでさかさまになっていた。何をしているのだろうと近づいてこちらもじっと見ていると、厭がって池の中央に泳ぎ去った。もう1羽のオオハクチョウはどこへ行ってしまったのだろう。この日は最後まで幼鳥しか見られなかった。



産卵間近かのジョロウグモ。あちこちで大きな腹部をあでやかに紅く膨らませ、雨滴で光る巣の糸に鎮座している。この糸は酸化して次第に黄色くなり、それに日光が当たると金色に輝いて見えることから英名を golden silk spider と呼ばれる。ネット情報によると、ジョロウグモの雌は目が悪く糸に架かったものは何でも食べてしまうようで、雄もしばしば犠牲者となるらしい。雄の大きさは雌の3分の1くらいしかなく雌の存在の派手さに比べ地味で、実物を見るとこれが同種の夫婦？と驚く。雄は雌の食事中に後ろから近づくのさそう。どこの世界も男はつらいものなのか。ジョロウグモ夫婦に気をとられていると、近くのヨシ原からアオサギがノッソリ飛びたった。「ギャーッ、ギャーッ」と叫ぶように鳴き「いつまで居るんじゃ、邪魔だ、邪魔だ」と悪態を吐かれたような気がしてそそくさとビジターセンターに引き返す。

センターの玄関には防府市の西浦保育園の子どもたちが来ていた。西側の東屋には宇部から来るといふ常連の仲良し4人組のおじさんたちの姿が見え、入り口から流行のリュックを背にした用ありげな女性が足早に入ってくる。今日も公園で自然と人とのふれあいが始まる。いつの間にか雨が上がり、ヨシ原の上空を猛禽類のチュウビが餌を探してゆっくり舞う。遠い山の稜線に淡い虹が架かっている。(土×土)

Kさんの、あんなとりこんなとり



窓の下でツィピー、ツィピー、ツィピー♪とシジュウカラが鳴いています。身体の色は白、黒、グレーで、頭の後ろがほんのり黄色。真っ白な頬も目立ちますが、何と言っても胸に黒いネクタイをしているのが特徴です。

春の巣作りの頃には、庭に落ちている小枝や我が家の白い犬の毛を一心に拾っては口髭のようにしてどこかに運んでいました。きっとふわふわの快適なベッドができていたことでしょう。四十雀と書いてシジュウカラ。40羽ものスズメが群れているように見えるから、と付けられた名前ようですが、庭で見かけるのは大抵が番いで、そんなにたくさんシジュウカラをまだ見たことがありません。春の巣作りの頃には、庭に落ちている小枝や我が家の白い犬の毛を一心に拾っては口髭のようにしてどこかに運んでいました。きっとふわふわの快適なベッドができていたことでしょう。四十雀と書いてシジュウカラ。40羽ものスズメが群れているように見えるから、と付けられた名前ようですが、庭で見かけるのは大抵が番いで、そんなにたくさんシジュウカラをまだ見たことがありません。



Uguisu